

理解！ 習得！ 自校に展開！

生徒の学びをデザインするカリキュラム・マネジメント

ワークショップレポート

カリキュラム・マネジメント（以下、カリマネ）の推進を通じて学校改革や指導改善に熱い思いを持った高校教師が全国から集まり、学校・立場・教科などの違いを超えて対話をしながら、カリマネへの理解を深め、自校での展開を考えた。その様子をレポートする。

ワークショップ概要

- 日時 2019年3月23日(土) 10時30分～17時30分
- 会場 株式会社ベネッセコーポレーション 岡山本社(岡山市北区)
- 参加者 全国の高校教諭42人 ※地方別内訳(関東6人、東海4人、関西9人、中国12人、四国4人、九州7人)
- 参加費 3,000円(税込み、昼食代を含む)
- 監修・ファシリテーター 関西大学教育推進部 教授 森 朋子 「三四郎の学校」事務局長 日賀優一
- 講師 関西大学教育推進部 教授 森 朋子 静岡県立御殿場高校 教諭 美那川雄一 岡山県立林野高校 校長 三浦隆志 (2019年3月現在)
- ワークショップの大まかな流れ
参加者5～6人を1グループとして進行。(1グループにつきベネッセの社員を1～2人配置)
- 10:30 開会挨拶、講師紹介
- 10:50 **グループ結成ワーク** (自己紹介、グループ名決定)
- 11:10 **課題整理**「なぜ、カリマネなのか？」 関西大学教育推進部 教授 森 朋子
- 11:30 **事例報告** 「静岡県立御殿場高校の取り組み」 静岡県立御殿場高校 教諭 美那川雄一
- 12:00 **グループワーク** 御殿場高校の取り組みに対しての共感点・疑問点などを語り合う
- 12:30 **トークセッション** 美那川先生と参加者の質疑応答
- 13:00 昼食
- 13:50 **3つの分科会** (3つの中から1つ選んで参加)
- 15:35 **グループワーク** 各分科会の内容をグループ内で共有
- 16:10 **個人ワーク** 個人のカリマネ行動計画シートを記入
- 16:30 **グループワーク** 個人のカリマネ行動計画の内容をグループ内で共有
- 16:50 **グループワーク** グループのカリマネ行動計画を検討・立案
- 17:00 **グループワーク** グループを超えて今日の学びの成果を共有
- 17:15 **グループワーク** 他グループから得た学びや感動をグループ内で共有
- 17:30 プログラム終了



10:50

グループ結成ワーク



ワークショップへの期待をグループで語り合う

今回のワークショップは、5～6人で構成されるグループを拠点に進められたことから、まずは自己紹介を兼ねたグループ結成ワークが行われた。各自が持参した地元名産のお菓子などを披露しながら、名前や学校名、担当教科、分掌、更に、参加の理由やワークショップへの期待などを伝え合った。食べながら、お菓子にちなんだグループの名前をつけ、メンバー間の親睦を深めた。



11:10

課題整理

なぜ、カリマネなのか？
森朋子教授の講演



なぜカリマネを行うのか、カリマネとは何かを学ぶ

学習理論の研究者である森朋子教授が、カリマネが必要な理由やカリマネの実現に向けたプロセス、学校教育目標の意義などを解説。森教授は、学習者(生徒)の実態を踏まえてカリマネを行う重要性を強調した。参加者は、事前に配信された学習動画でも予習してきており、森教授の話を中心して聞いている様子が見られた。



11:30

事例報告

静岡県立御殿場高校の取り組み
美那川雄一先生の報告



生徒の実態をどう捉えて教育目標を立てるか？

御殿場高校ではどのようにカリマネを進めているのか。美那川先生が課題意識を持った発端、読解力のテストを行って生徒の実態を把握、その後、他の教師とともに取り組みを進めている過程を紹介した。気づきを可視化し、グループで共有できるよう、「共感した点」「違和感・疑問・不安を持った点」をワークシートに書き込みながら話を聞いた。



12:00

グループワーク・トークセッション

美那川雄一先生との質疑応答



共有した共感点や疑問点から講師への質問をまとめる

美那川先生の話聞きながら記入したワークシートの内容をグループ内で共有した上で、美那川先生への質問を各グループ2つに集約。それらをスライドに映し、美那川先生が回答していった。多くのグループから、組織的な取り組みにできた背景や、目標に基づいた指導改善の進め方に関する質問が出され、地域や学校の属性にかかわらず、共通の課題があることがうかがえた。



▶詳細は10ページへ

▶詳細は6ページへ

ワークショップの動画を公開！ 今回のワークショップの様子を動画でご覧いただけます。それぞれのQRコードを読み取ってアクセスしてご覧ください。

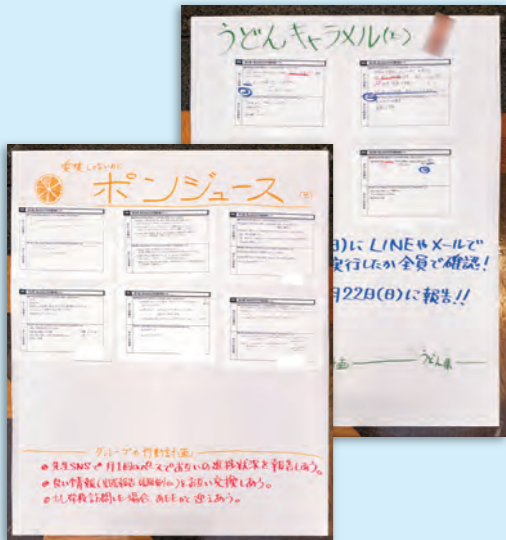
ワーク・対話・共有といったアウトプットを中心としたスタイルのワークショップで、学校を超えて悩みや考えを共有！

今回のワークショップでは、1グループを、学校や立場、教科、教職歴などが異なる5～6人のメンバーで構成し、メンバー同士で話しながら思いや実践を共有。そこで得た気づきや考えたことを言語化して共有する過程を大切に、参加者がそれぞれ答えを見いだすことをねらいとした。

今回のワークショップを上記の進め方とした背景は、P.52「これからの会議・研修のあり方、つくり方」で解説しています。



グループのカリマネ行動計画を作成、他グループと共有



カリマネを推進する仲間として結束!

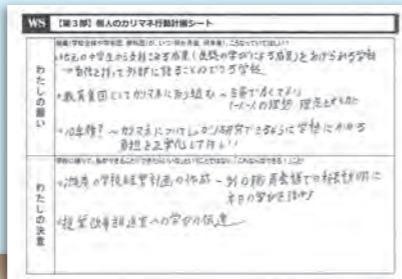
個人のカリマネ行動計画シートを模造紙に貼り、メンバー同士がどのように見守り、励まし合うのかなど、グループの行動計画を立て、模造紙に記入。各グループの行動計画を見て回った。最後に、他グループの内容を見て感じたことや気づき、今日1日の学びをグループ内で発表して、プログラムは終了した。



「ベネッセハイスクールオンライン」上に先生SNSを開設し、越境する学びを応援!

今回のワークショップで築いたネットワークを、今後の活動にも生かしてもらおうべく、「ベネッセハイスクールオンライン」上に、ワークショップ参加者専用の会議室を設置。参加者同士で悩みや課題を相談し合ったり、3人の講師に質問をしたりと、交流が続けられている。

個人のカリマネ行動計画を作成、グループで発表



明日からの具体的な行動に落とし込む

今日学んだことや気づきを生かして、自校ですぐにアクションを起こせるよう、今後の個人の行動計画を考えた。学校全体や学年団、教科団が〇年後または〇か月後、こうなってほしいという姿を設定し、その実現のために自分が明日からできることをシートに記入。決意表明として、グループでその内容を発表し合った。



3つの分科会

3つの中から1つを選んで参加

カリマネを学校全体に浸透させるポイント 講師 三浦隆志校長



教師全員をどのようにして巻き込めばよいのか?

参加者は、ワークシートを用いて、カリマネの基本的なステップの中で自校が優先する課題を整理。「カリマネへの関心が低い」「対話的な場をつくる時間がない」といった優先順位の高かった課題について、校長としてカリマネを推進してきた三浦先生が自身の体験を語った。



▶ 詳細は18ページへ

カリマネと学習評価のあり方 講師 森 朋子教授



指導改善に結びつく学習評価のポイントは?

森教授は、生徒の課題を的確に見いだしてこそ効果的な指導改善ができると伝えた上で、逆向き設計の考え方や学習評価の手法を示した。その考え方や手法を踏まえ、参加者は自校の教育目標の評価手法が適切なのか、参加者同士でアドバイスしながらチェックしていった。



▶ 詳細は16ページへ

学校教育目標のブラッシュ・アップ 講師 美那川雄一先生



カリマネの起点となる目標づくりの視点とは?

参加者が事前に洗い出した自校の強み・弱みと、美那川先生が重要だと考える学校教育目標策定上で重要な4つの観点を踏まえ、参加者は自校の教育目標を見直し、修正。その結果を参加者同士で共有し、より自校に合った教育目標にブラッシュ・アップするための意見を出し合った。



▶ 詳細は14ページへ

分科会の内容をグループで共有

最初のグループに戻って共有

他の分科会の内容を知るとともに自身の学びを振り返る

自分が参加した以外の2つの分科会の概要をつかめるよう、最初のグループ内で自分が参加した分科会の内容や気づきなどを報告し合った。その報告した内容に対して質問や疑問も出され、それらに答えた参加者は、分科会での学びを振り返る場にもなった。

